

(様式 1)

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 5 月 8 日									
法人名	有限会社 エフ・エフ産業									
代表者(理事長)名	代表取締役 羽原 尚子									
介護保険事業所番号	2	7	7	4	5	0	0	9	9	1
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホーム 桂苑 Aユニット									
事業所所在地	泉佐野市羽倉崎1丁目1番4号									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者 (氏名) 吉田加代子、松木、藤田、馬場、久保田									
連絡先電話番号	072 (465) 9000									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念をつくっている。 玄関、事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。	・人間の尊厳を守る。 ・自立した生活の援助。 ・プライバシーの尊重。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	唱和する事で、頭にはいっていると思います。 スタッフ一同日々取り組んでいます。	職員全員が理解、実践できるよう繰り返し、教育を重ねて身につけていく様に指導する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者が、施設の中での暮らしを有意義にする為にも、ご家族の協力を得ることにしている。	地域社会への理念の浸透については、今後、地域活動への積極的な参加により、図っていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店を利用し、見学は随時受け入れている。 散歩で出会う方々と、日常的な挨拶は交わしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	最近、アクシデントに依り、商店、交番、近隣の住民、タクシー会社等の協力を得た事で、地域の一員として、今後も積極的に交流に努め、施設の開放を進める。	認知症の程度や身体状況等の理由を踏まえ、参加できそうな地域活動の内容を検討し、積極的に地元の人々との交流を図っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	現在は、取り組めていません。		入居者の活動として野菜や植物を栽培し、それら を活用した食事会や観覧会等の催しの計画をたて 、地域の高齢者を招く事により、独居老人等の孤 独感や社会に対する疎外感の除去に努めていき たい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	各自、日々行っている事を外部評価及び自己評価 を実施する事で見直せる。 その都度、改善には取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議の中で話し合った事で、参考になる 意見は、即活用させて頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	市担当者から、会議以外にも連絡等を頂き、サー ビスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用して、利用されている 入居者も居られますので、実践を通して学んで いる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は研修にも参加し、日々、防止に努 めている。研修に参加した職員より、勉強会に おいて、報告をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	説明は、十分に行っている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情解決責任者、苦情受付担当者を2名役付け、解決する場を設けている。 玄関先にご意見箱も設置している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、書面にて身体の状況、受診内容、生活状況、認知症の症状、行事・レクリエーション活動等の報告を行っている。 又、来苑時には近況のご報告を行っている。 個人の金銭ノートも来苑時に開示し、捺印をもらっている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情等の投書箱を設置しているが、投函されていない。 話の中で、汲み取り、反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回のミーティングでは、各職員が発言する機会を設けている。	運営に関する意見について、もう少し反映させたいと思うが、意見によっては難しい場合もあり。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事内容や緊急時の対応の際には、職員の確保に努め、勤務調整などを行い、柔軟に対応している。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動する事が会社、職員にとって良い事なのかも知れないですが、利用者への負担は大きいものと考えられる。しかし、目新しい職員に心の内を開けやすい利用者も見受けられるので、どちらとも言えない。</p>		<p>職員の退職については、最低1ヶ月前に会社に申し出るようにし、スムーズに異動等を行っている。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>府社協など開催の社外研修に順に参加し、その講習会の内容をレポートにまとめ、発表の機会を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年に1回、近隣のグループホームと交互研修を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会や歓迎会等を行っている。</p>		<p>福利厚生の一環として、飲みニケーションも含め、ストレスを軽減できる為のボーリング大会やスポーツ大会を企画して行きたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>就業規則において、ヘルパー2級、1級、介護福祉士、介護支援専門員等の資格手当を設けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談時より本人様から要望をしっかりと聞き取る。本人様よりの聞き取りが困難な場合は御家族様より情報を得ている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>インテーク～入居に至るまでの家族のニーズの変化も含め、十分な聞き取りを行っている。また、その意見を受容、援助内容に反映するように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>インテーク時のニーズの把握に努め、当施設の対象となり得るか否かを判断と説明を行い、入居当初の介護計画(暫定)を立て、同意を得ている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所を経験して頂き、ご本人様、ご家族様双方、納得された上での契約とする場合もある。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>話題の中心を常に利用者とし、接している。料理の手順や味付けを利用者と共に行ったり、ドラマやビデオを観て、共感したりしている。時には、母のような視点で意見を下さる利用者の方も居られます。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に生活している中で、どうしても職員だけでは、解決できない問題や利用者の心理的ケアでは、ご家族の協力が必要なので、日々、どのような事でも伝えている。		時として、ご家族の協力を得すぎて、家族への心理的ケアも考える必要があるのではないかと思うので、今後考慮して行きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来苑時には、できるだけ水入らずで過ごして頂いている。年に2、3度 家族交流会を設け、楽しい思い出づくりを提供している。		参加できる家族の方々、同行にて団体での外出(遠足のような形)をして行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人、友人の方々の面会も受け入れている。 今まで、通っていた床屋(美容院)への外出援助を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	近からず、遠からずの距離を保っている。 他の利用者の名前を呼ぶ機会(ゲーム等)を提供したり、利用者間で発生した問題についても、きちんと話し合いの機会をもっている。		一緒に生活しているので、定期的に移動可能な方と、必要な限り席替えをして、違う利用者や食事が出来るようにも、もっと行って行きたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等の際には、定期的に面会に行くように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションをとり、入居者の方が何を望んでいるか、話しやすい環境を提供し、個々の意向を読み取っている。外出レク、散歩、日常生活内で、入浴介助、トイレ介助等色々な場面で本人の思いを把握している。</p>	<p>生活の中でストレスを受けないよう、本人が常に精神的に安定した状況を支援している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時のサマリーを読み、入居以前の生活環境や家族との関わり、性格の把握、病院への入院又はディサービスの利用歴や他の施設の利用を知ることによってグループホームでの行動への理解をし、的確なサービス内容を支援する。</p>	<p>入居者の個性を生かし、毎日目標を持ってもらい、達成感、充実感を得られるようなサービスを提供し、支援する。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々、身体面・精神面の変化があり、主治医との連携をとり、介護者が状況理解し、本人の意思確認を行い、負担のない介護ができるよう心がけている。</p>	<p>入居者の方の訴えと様子観察を行い、声に出ない心の叫びを読み取れるよう努力している。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、ケアカンファレンスを開き、家族の希望、ご本人の希望、スタッフの利用者への課題を討論し、スタッフ全員で意見を述べ、現状で何が一番大切であるかを話し合い、介護計画書を作成している。</p>	<p>家族との連絡を密にし、来苑時には現状報告を行い、月1回の報告書をキーパーソンの方に郵送している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入院や退院などでアルツハイマー、認知症の進行がみられる時は、現在の介護計画では合わなくなり、再アセスメントを行い、現状に即した介護計画書を作成する。スタッフの協力と介護経過を読み、変化を御家族様に伝え、説明をし、新しく計画書を作成する。</p>	<p>介護者として、変化や人間観察力をつけ、利用者がより良い生活が出来るように計画書を作成し、生きがいを提供できる内容にしたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録を読み、介護計画書の内容は実行しているか、結果はでている状況なのかを確認し、1ヶ月ごとにノートに記録し、必要なときは、見直し、スタッフと共有し、意見や指示を行っている。		介護経過記録の記入が、的確にできるよう、気づいたときに情報を伝える。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの特性を生かし、1対1での外出や買い物、室内レクを提供し、ボランティア等のレクレーションを取り入れ、社会参加を促し、強要しないで支援している。		外出、散歩などの外出レクレーションは、移動、見守りを行い、1対1で本人の要望に対応できるよう心がけている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌体操、大正琴、手芸ボランティアや外出レクでは泉佐野文化ホールを利用した実績がある。安全面では警察、消防への関連をもち、年1回の消防訓練も実施している。		子供と触れ合う、社会参加をもっと行ってきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、心身など現状維持を考え、羽原病院のリハビリを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働は行っていない。過去に泉佐野社会福祉協議会において、入居者の利用に対して、成年後見制度を利用したことがある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科、外科、歯科を定期往診を1ヶ月2～4回行い、現状をご家族へ伝えていきます。今村眼科、白井病院等を受診し、受診ノートで得られた内容は記録を行っている。</p>		<p>受診内容を全スタッフに連絡・報告できるシステムが出来ている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症専門医(白井病院、中山診療所等)への受診を実施し、スタッフ、医師との連携もできており、指示を貰い、入居者の受診支援はできている。</p>		<p>スタッフが必要内容を確認し、医師に連絡している。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員、羽原病院の看護師と常に連絡が取れ、緊急時や夜間の場合は、指示、指導を受けている。入居者の日常の健康管理変化に注意し、対応しています。</p>		<p>介護スタッフは、観察力を身につけ、必要な項目を的確に看護師に伝えられるように努めたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者の入院に対しては、毎日通院し、その日の様子を観察ノートに記し、病院と連携し、洗濯物等を持って帰っている。情報があれば、スタッフに連絡する。退院も同様に行っています。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>認知症、アルツハイマー、下肢筋力の低下は、進んでおり、ご家族様への進行現状の把握と、スタッフと医師の連携をとり、カンファレンスを開き、情報を共有し、対応している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期においても、個人の人間としての尊厳を守る為、協力医療機関も含め、チーム一丸となって支援に取り組んでいる。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居時は、誰でも帰宅願望がみられ、生活歴からくる行動をされています。介護者は個々にあった対応をし、傾聴をしています。御家族様からの情報提供を行い、精神的ケアを少なくする。</p>		<p>自宅での馴染みの家具や装飾品、使い慣れた物、こだわりのある物などを持ち込まれています。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>サマリーで得た情報、介護記録などの個人情報は、入居者の前で話したり、外部に出ないように注意し、確保している。入居者に対して、人生の先輩として、敬意を表している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活がボーと過ごすことなく、認知症の症状に合せた声かけ、日常生活介助をする。行動、しぐさ、観察を行うことでコミュニケーションのタイミングを図り、本人の希望、思いを出してもらう。能力の差があり、入居者に合せて対応、支援している。</p>		<p>個々の判断力に応じ、自己決定介助を行う。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームの一日のリズムはありますが、本人の決定を重視し、次に苑のリズムを考え対処している。今は、決まった時間であると強要なく、コミュニケーションをとり、支援をする。</p>		<p>暮らしの中で、個々の利用者が笑ってもらう行事、レクを探してみる。趣味を伸ばし、生きがいや楽しみを提供する。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容師の免許を持っているスタッフによる理髪介助を行い、希望で美容院へ行かれる入居者の介助をしています。入居者の自己決定を尊重しています。</p>		<p>美容院などへの外出で、気分転換と金銭感覚、管理を提供する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、配膳、食器洗いなどを職員と一緒にやっている。 手作りおやつなども		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	何を食べたいか、飲みたいか、本人に尋ねるように声かけし、主治医との連携をとりながら、可能な限りご本人の望む支援ができるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間をみて、トイレ誘導を行っているが、排泄のリズムが掴めず、失禁、失便が多い日がある。		個々の排泄ペース、サインを見い出し、失禁前にトイレ誘導を行うようにし、個人の行動をスタッフが把握し、排泄の失敗へのダメージ軽減に努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1番に入りたい方、最後に入りたい方という希望、お湯加減等も、その都度お聞きし、希望に沿った入浴をされている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活歴からヒントを得て、眠前薬の服用をなくした方や服用したことを忘れられる方には、ホットミルク等を飲水して頂き、入眠されるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割について、全員の方には支援できていない。個々の趣味や楽しみごとについては、手芸ボランティア、小物作り、散歩などを毎日ではないが、行っている。		まず、利用者に要望聞き、それを具体的にを行うには、どうしたら良いのか職員間の綿密な話し合いが必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭袋、小遣い帳を持ち、買い物や外食される度に、支払い後のレシート、領収書を保管されている。金銭の管理能力がある方には、財布を携帯、所持していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	A D Lを考慮し、その方にあった距離内を外出のコースとしている。又は、植物観賞を好まれる方には、季節ごとの花が観賞できるコースも取り入れられている。畑での作業(水遣り、草引き、収穫等)もされておられる。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、外出レクを行っており、体調に留意しながら、参加して頂いている。4回の日程に分け、各ユニット2名ずつで外出されている。家族同行での外出の機会づくりは、支援できていない。		家族同行での外出は、未だ行ったことがなく、今後の課題である。外出レクへの付き添いはあります。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話をして頂いたり、又は手紙も書いて頂いている。ご家族様のご理解の下でできる限り支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもご来苑していただけるよう、面会時間は決まっていますが、臨機応変に対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習会に参加し、口頭やパンフレット等を通じて、理解できるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、フロアー入り口、各フロアーを隔てているドアも開錠しており、自由に行き来できるようにしている。		危険を伴う場所のみやむを得ず、施錠しているが、圧迫感のないように工夫し、スタッフが見守りを重視し、出来る限り開放するように心掛けている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りは、勿論のこと。A、Bの職員間で本人の所在、様子等を報告し合っている。又、入り口の見えにくい場所には、カーブミラーを設置し、常に安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の管理能力を良く見極めた上で、又置く場所も固定して頂いている。使用される場合は、見守りでい危険防止している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は、講習会や勉強会に積極的に参加し、知識を取得している。又、防災訓練にも参加している。		理解できていない職員もいるかと思うので、徹底した教育を実施し、知識と認識をもって、事故防止に取り組むべきである。それは、職員一人ひとりの課題である。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法のみは、消防署より来て頂き、講習会を行ったが、それ以外は行っていない。 マニュアルは作成している。		今後、看護師と連携をとり、急変時や事故発生時に備えた、教育指導を考えて行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として、年に1回、火災による避難訓練を実施している。		地域の人々の協力を得られるよう、働きかけが必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、ご家族様に現状を説明報告し、理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、入浴時の皮膚観察、歩行時の様子観察(ふらつきの有無)を行っている。気づいた事は、連絡報告し、対応に結び付けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が、服用されているが、全員分の目的や副作用については、理解できていない職員もいる。用法や用量については、薬箱の中に、前もってセットしてあるので、問題はない。症状の変化については、数名の職員が見極めができています。		薬についての説明書がサマリーに挟んでいるので、常に理解できていない職員は、目を通すべきである。症状の変化を見るには、日頃の利用者さんの状態を良く知ることである。それを全職員が出来るようになる事である。 看護師、医療機関と連携をとり、薬の用法や用量について、指導していただく機会をつ
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を作り、印をつけている。(排便の有無の確認の為)便秘にならない様に、水分を摂って頂いたり、苑内や苑外の散歩、乳製品の摂取等を勧めている。食事の摂取量の減少や精神的に不穏状態になっていないか等も見ている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの習慣がなかった為、本人の意思を尊重し、特に昼食後には行っていない。(拒否される)		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューを提供しているので、栄養的には問題はない。但し、高齢者にとっては量が多いので、体重増加の傾向が見受けられる。糖尿病の方については、量を調整している。水分量は、いつでも飲んで頂ける様、声かけし、水分摂取を促している。		水分摂取量が少ない利用者、どのようにしたら、飲んでもらえるか、今後の課題である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、マスク使用などの実行。 トイレ介助時の手袋着用、トイレの壁、床の清掃、汚物の処理、洗面所を清潔に保っている。 感染症マニュアルも作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、湯通しする。食器乾燥機の使用、包丁、まな板の消毒、生ゴミ等は、その日に処理し出している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口に鉢植えの花等で演出し、壁には四季折々の写真を飾り、利用者や家族の方に好感が持てるように配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的雰囲気考慮し、フローア入り口には、四季折々の花を生けたり、ホールには四季折々の飾付けを利用者と職員で手作りです等工夫をこらしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に、利用者がひと休みできる様、ソファを置き、団樂の場を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた調渡品等を置き、家族の写真等を貼ったり、身体状況に応じ、ポータブルトイレも置き、利用者が過ごしやすく配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝には、全室窓を開け、空気の換気を実践している。夏、冬の空調の調節は、利用者一人ひとりの体調に合わせ、こまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階部分が居室になる為、昇降機の利用、階段の手すり、トイレ、浴室などの手すり、段差などに配慮し、自立に向けた支援を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援の為に利用者と共に食事を作ったり、食後の洗い物をしたりしている。又、ボランティアの方と手作りの物を作ったり、歌体操等で体、手足の運動をしたりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	農園を作り、野菜、花などを植え、時季の野菜等ができたら、収穫をして頂き、水やり、草引き等を楽しみされている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)